Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	33	学校名	中央高校(定)		
全・定・通	定	学年	1	在籍生徒数	55　名

教育目標 （学力に関するもの）	自分を知り、他者を知り、社会で生きていく力を育む授業の実践
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1) 自分にもわかる、できるかもという体験・実感を通して、自ら学びに取り組む意欲を育む。 2) CHUOハーモニックプランに基づき、自分も相手も大切にできる生徒を育てる。 3) 自他の生き方・あり方に触れることを通して、社会の中で自分の力を活かす力を育む。

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	言葉の意味やきまりを知り、情報を収集し、話の道筋に沿った言葉を用いることができる。	3.9	4	ことばの意味やきまり等、語彙力の強化と基本的事項の定着を図りつつ、適した情報を選択する力をつけ、文脈に即した意見を述べる活動を積み重ねる指導を続けてゆく。
	文章の構成を考え、適切な語句を選択し、表現し相手に伝えようとすることができる。	3.7	4.1	文章の構成や展開を工夫し、適した語句を用いて表現を発表する機会を設け、更なる資質・能力の育成に努める。
	発表や話し合いに参加し、他者とのコミュニケーションを取ろうとすることができる。	3.6	4	話し合い、討論、発表などの言語活動にICTを取り入れるなどして、個に応じた言語活動の推進をしてゆく。
地公	教科書の内容を理解し調べたり、まとめる力を身に付けることができる。	3.9	4.1	内容をただ理解するだけではなく、常に疑問や興味を深める姿勢を身に付けさせることに努めたい。
	様々な事柄の意味などを考え、表現することができる。	3.8	4	グループワークの活動などを通して疑問点や学んだことを発表する機会を設けることで表現力を養いたい。
	興味関心を高めるために、意欲的に取り組むことができる。	3.7	4.1	映像など視覚的教材を用いたり、身近な話題を盛り込むことで、より一層、意欲を喚起したい。
数学	基礎的な計算ができる等、基礎的・基本的知識が身についている。	3.7	3.9	基礎・基本を確実に定着させるため繰り返し学習することで学力の定着ができるようにする。
	数学を活用し数学的論拠に基づいて判断することができる。	3.3	3.9	基礎知識を確認しながら段階的に新しい内容を学習することで物事を数学的に判断し解決できようにする。
	日常生活や社会の事象を数理的に捉え、対話的な学びを通し、主体的に課題解決に取り組むことができる。	3.3	3.9	学んだことを他者に説明しわからないところを納得いくまで話すことで数学への理解をすすめていく。
理科	現象を理解しようとし、科学的に探究するための観察・実験を行える。	4	4	身近な現象に興味・関心を持たせ、実験・観察が正しい手順でできるよう指導していく。
	観察・実験を行って科学的に考察し、その結果を図や文章で表現することができる。	3.6	4.1	考察の結果を教科書やパソコン等を利用して考察し、自分の意見が正しく表現できるよう指導していく。
	現象に主体的に関わり、現象が起こる原因を科学的に探究しようとしている。	3.6	4	なぜ？どうして？と疑問に思った現象を考える機会をつくり、そのことについて原因などを科学的な視点で考えさせる指導をしていく。
英語	英文法の基礎的な事項を理解し、これらの知識を実際のコミュニケーションに応じて適切に活用できる。	3.2	4	ボキャブラリーや基本的な表現、基礎文法の定着を図り、実際の自己表現の練習へとつなげていく。
	目的や場面状況に応じて、概要や要点、詳細、意図などを理解することができる。	3.4	4.1	授業内でペアワークやグループワークを多用し、適切な発話を促していく。
	文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	3.4	4	ALTの多文化講座や生徒が興味を持つような教材を提供し、興味を持って主体的に学べる態度を養っていく。
芸術				
家庭				
保体	運動の特性に応じた技能と社会生活における健康・安全について理解する。	4.2	4	健康・安全について身近な話題に触れ興味・関心を持たせるとともに、技術向上のためにICT活用する。
	運動や健康について自分の課題を見つけ、解決に向けて考察し、他者に伝えることができる。	3.8	4.2	ペアワークで仲間と話し合う場面を作り、相手の良い面を伝え合う機会を設ける。
	健康の保持増進と体力の向上を目指し、運動に親しみ、楽しく活動することができる。	4	4.2	自分の身体に関心を持たせ、筋力や柔軟性を鍛える補強運動を取り入れる。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
商業	ビジネスについての実務を理解し、基礎的な知識と基本的な技術を身につけることができる。	3.6	4.1	ビジネス基礎の授業を中心に、商業科目を学んでいく意味を理解し、学びを実践する。
	ビジネスに関する知識・技術を活用し、解決することについて考えることができる。	3.5	4	ビジネス基礎・簿記を中心に問題解決のための基礎力の定着をはかる。
	ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組み、実行できるようにする。	3.5	3.9	基礎力の定着をはかったうえで、主体的かつ協同的に問題解決のできる基礎力を養う。
総探	地域に根差した体験活動や講演会等を通して、社会に関心を持つことができる。	—	4.1	体験活動や探究活動から自分を取り巻く地域の良さに気づくことができるようにする。
	BYODを有効活用し、集めた情報を整理・分析し、新聞記事にまとめることができる。	—	4.2	BYODを活用し調べた内容を、自分なりに整理しまとめることができるようにする。
	主体的・協働的に取り組み、地域と自己の関わりを理解することができる。	—	4.2	自分を取り巻く地域の課題解決に向けて他者と協働し、積極的に取り組むことができる。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	88.0%	92.0%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	77.0%	88.0%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	96.0%	97.0%
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	95.0%	96.0%
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	85.0%	90.0%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思う	91.0%	85.0%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	77.0%	86.0%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	77.0%	90.0%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

・「種まき・芽生え・成長」という意識で、生徒一人ひとりの発達段階に応じたサポートをしている。大変良い83%良い16%
・少人数授業の中で「わかった・楽しい・なぜどうして・自分だったら」の学びを大切にし、個に応じた能力を伸ばしている。大変良い83%良い16%
・授業や行事の中で「命を守る、命を大切にする」学習を通して、多様化する社会を生き抜く力を高めている。大変良い70%良い20%
・総合的な探求の時間での「山梨を知る」探究活動や遠足を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする心を育んでいる。大変良い40%良い40%
丁寧に指導してもらえてありがたい。検定に合格して良かった。非常にわかりやすく黒板を消すタイミング、子どもたちに書かせる時間、私がもう一度勉強する機会があれば、是非受けてみたい授業だった。先生たちが優しく教えてくれたり、日本語以外の言語で相談してもいいと言ってくれてうれしかった。子どももいつも楽しく勉強している。

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

知識・技能の基礎を固めたり、学び直しに留意したり、身近な話題や視覚教材を用いる等工夫していることが、楽しさやわかる喜びを感じつつ力をつけることにつながっている。ペアワーク・グループワークを取り入れることで、自分も他人も大切にできるコミュニケーション能力を育んでいる。
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかどうかについての振り返りや、自己評価・相互評価の機会をさらに充実させることが課題と言える。

Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	33	学校名	中央高校(定)		
全・定・通	定	学年	2	在籍生徒数	62　名

教育目標 （学力に関するもの）	自分を知り、他者を知り、社会で生きていく力を育む授業の実践
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1) 自分にもわかる、できるかもという体験・実感を通して、自ら学びに取り組む意欲を育む。 2) CHUOハーモニックプランに基づき、自分も相手も大切にできる生徒を育てる。 3) 自他の生き方・あり方に触れることを通して、社会の中で自分の力を活かす力を育む。

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	言葉の意味や用法が定着し、情報を広く収集し、話の道筋を踏まえて言葉を用いることができる。	4.1	4.2	語句の意味や関連のある事柄、情報の妥当性を吟味して、文脈に即した意見を述べるための言語活動の推進を目指す。
	自分の考えで、適切な語句を用いて、表現したり、相手に伝えたりすることができる。	4.1	4.1	文章や詩歌を創作させたり、複数の文章を読み比べて論じさせたりする等、適切な言語活動の推進を継続して行っていく。
	自らの課題に気づき、発表や話し合いを通して、他者とのコミュニケーションに取り組むことができる。	3.9	4.1	作品や文章を読み興味や疑問を持ったことを調べたり発表したりする活動を通して、習得した知識を生活に役立てて自己の向上を図る実践をしていく。
地公	教科書や資料の内容に対して、興味関心を強く持ち、知識を高めようとしている。	4.1	4.2	常に興味や関心、または疑問をもって臨む姿勢を育むことができるよう話し合いや発表などの場をより設定していく。
	様々な事柄に対し探究し、他者の考えを尊重し、自身の考えとして表現できる。	4.1	4.3	身近な話題と関連付けながら、自ら学ぶ姿勢を育む活動を推進していく。
	自らの課題と向き合い、主体的に学習することができる。	3.8	4.2	興味や関心をさらに喚起するとともに、文化の多様性を理解させるよう努める。
数学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学的に解釈したり、表現・処理できる。	3.9	4.3	繰り返し自分で計算し、実際に図形を書いてみることで数学的な理解と考えを深める。
	適切な手法を選択して分析をおこない、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる。	3.9	4.3	復習しながら段階的に新しい内容を学習することで物事を数学的に判断し解決できようにする。
	数学を活用し数学的論拠に基づいて判断できる。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善できる。	4	4.3	数学を体系的に身に付けるために、これまで学んだきた数学がどのようにつながっているのかをよく考える力をつける。
理科	現象について理解し、科学的に探究するために必要な観察・実験を正しく行える。	3.9	4.3	身近な現象に興味・関心を持たせ、必要となる実験・観察が正しい手順でできるよう指導していく。
	観察・実験を行って科学的に考察し、その結果を図や文章で的確に表現することができる。	3.9	4.1	考察の結果を教科書やパソコン等を利用して考察し、自分の意見を正しく表現して他者に伝えられるよう指導していく。
	現象に主体的に関わり、現象が起こる原因を科学的に探究しようとしている。	4	4.3	なぜ？どうして？と疑問に思った現象を考える機会をつくり、そのことについて原因などを科学的な視点で考えさせる指導をしていく。
英語	外国語の理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションに応じて適切に活用できる。	3.7	4.3	繰り返しの練習を通してボキャブラリーや表現、文法のさらなる定着を図り、実際の自己表現の練習へとつなげていく。
	目的や場面状況に応じて概要や要点、詳細、意図などを理解し、表現したり伝え合ったりすることができる	3.7	4.2	授業内でペアワークやグループワークを多用し、適切な発話を促していく。
	文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	3.2	4.2	ALTの多文化講座や生徒が興味を持つような教材を提供し、興味を持って主体的に学べる態度を養っていく。
芸術	芸術の文化的・歴史的背景を理解すると共に、基礎的な技能を身に付けることができる。	4.1	4.3	芸術の奥深さを知り、身に付けた技能を日常生活に生かせるようにする。
	自己のイメージをもって表現を創意工夫することや、作品の良さを味わい深めることができる。	4.1	4.3	芸術作品の良さを味わうと共に、自己の想いや考えを、工夫し表現できる力を養う。
	主体的・協働的に幅広い創作活動に取り組むことができる。	4.2	4.3	主体的に作品制作や発表を行い、成果を実感することで自信に繋げる。
家庭	家族・家庭と社会との関わりを理解しているとともに、生活を主体的に営むための知識と技能が定着している。	4.1	4.4	ほぼ目標達成できたので、今年度の学習内容を見直し、来年度は日常生活で活用できる知識と技術の定着に効果的なICTをさらに活用していきたい。
	家庭生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価したり改善したりして課題を解決する力を身につけている。	4.1	4.4	生活の中の問題点を解決するためのワークを充実させていく。また、グループワークで課題に取り組み、解決できる力を養う。
	よりよい社会をつくるため様々な人々と協働し、課題の解決にむけて主体的に関わろうとしている。	4	4.4	学んだ知識・技術を家庭生活で活用できる課題を提示し、生徒の実践を促していく。
保体	運動の特性に応じた技能と社会生活における健康・安全について理解し、技能を身に付けることができる。	4.1	4.4	健康・安全について身近な話題に触れ興味・関心を持たせるとともに、技術向上のためにICTを活用し、分析・評価できるような機会を設ける。
	運動や健康についての自他の課題を見つけ、解決に向けて深く考察し、他者に伝えることができる。	4.1	4.4	ペアワークやグループワークで仲間と話し合う場面を作り、相手の良い面に着目させて伝え合う機会を設ける。
	健康の保持増進と体力の向上を目指し、運動に親しみ、仲間と協力して楽しく活動することができる。	4.2	4.3	自分の身体に関心を持たせ、筋力や柔軟性を鍛えるとともに、仲間と協力しながら体力が向上する補強運動を取り入れる。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識および技能を身に付けることができる。	4	4.3	AIをはじめ様々な情報技術を実際に利用してみることで活用するための力を身に着けることを目指す。
	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を実際に活用する力を身に付けることができる。	4	4.3	実社会で問題となる具体例を通して、問題解決力の定着を進める。
	情報社会に主体的に参画する態度身に付けることができる。	4	4.3	急速に変化している社会の情報化に対応できるよう、実例から対応するためにはどう行動するべきかを考えさせ定着をはかる。
商業	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる。	4.2	4.2	情報処理や簿記で学ぶ知識をもとに、ビジネスについてより具体的、実践的な問題解決能力を養う。
	ビジネスについて課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	4	4.1	基礎科目を学んだうえで、実務を行う際の実践力の定着をはかる。
	ビジネスを展開する力の向上を目指して自ら学び，ビジネスを学ぶ上で主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4	4.1	実践的に問題解決を行いながら、主体的かつ協同的に問題解決のできる力を養う。
総探	自己の適性を理解し、社会的自立について考えることができる。	ー	4.4	探究活動を深めることで自己の適性を理解し、社会的自立について考えるよう促す。
	集めた情報を整理・分析し、自らが大切だと思ったことをまとめ、表現することができる。	ー	4.4	BYODを活用し調べた内容を、理解しやすい方法で適切にまとめ他者に伝えられるようにする。
	主体的に取り組み、社会の一員として何ができるか・何をすべきかを考えることができる。	ー	4.3	自己の適性を生かし、社会の一員として何ができるのかを考えさせる。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	95.0%	93.0%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	91.0%	96.0%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	96.0%	100.0%
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	98.0%	100.0%
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	98.0%	98.0%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思う	97.0%	98.0%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	89.0%	94.0%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	91.0%	87.0%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

・「種まき・芽生え・成長」という意識で、生徒一人一人の発達段階に応じたサポートをしている。大変良い83%良い16%
・少人数授業の中で「わかった・楽しい・なぜどうして・自分だったら」の学び大切にし、個に応じた能力を伸ばしている。大変良い83%良い16%
・授業や行事の中で「命を守る・大切にする学習」を通して、多様化する社会を生き抜く力を高めている。大変良い70%良い20%
・総合的な探求の時間での「山梨を知る」探究活動を通して、地域を愛し貢献しようとするこころを育んでいる。大変良い40%良い40%
先生方が優しく接してくださっていることがわかり、授業中も良い意味で壁のない雰囲気だと感じた。少人数だからこそ、子どもも過ごしやすいのかなと思った。自分で目標を持つようになって取り組みだしているのでアシストしてほしい。授業での取り組みをきっかけに発展的な学習に取り組み始めた。

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

知識・技能のさらなる定着を図るよう、ICTやペアワーク・グループワークを活用し、効果を上げている。体験を通しての学びに関する満足度が高く、生徒の実態に即した授業の工夫が行われている。授業が楽しくわかりやすい、と感じている生徒が多く、CHUOハーモニックプランにおける「種まき」が「芽生え」につながっていると言える。
目標を意識化させることや、ICT活用に関してはさらに工夫することが課題と言える。

Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	33	学校名	中央高校(定)		
全・定・通	定	学年	3、4	在籍生徒数	73　名

教育目標 （学力に関するもの）	自分を知り、他者を知り、社会で生きていく力を育む授業の実践
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1) 自分にもわかる、できるかもという体験・実感を通して、自ら学びに取り組む意欲を育む。 2) CHUOハーモニックプランに基づき、自分も相手も大切にできる生徒を育てる。 3) 自他の生き方・あり方に触れることを通して、社会の中で自分の力を活かす力を育む。

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	言葉の意味やきまりを踏まえ、情報を適切に収集・活用し、論理的に筋道の通った説明ができる。	3.8	4.2	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりするよう働きかけていく。
	自分の考えで、構成や語句等を比較検討し、場に応じて表現したり、相手に伝えたりすることができる。	3.8	4.3	授業中の活動を通して論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	学びについて見通しを持ったり振り返ったりしながら、自らを向上させるよう取り組むことができる。	3.9	4.2	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っていく。
地公	基礎・基本を踏まえ、探究活動を通して、さらに発展的な知識を身に付けている。	3.8	4.1	常に興味や関心、または疑問をもって臨む姿勢を育むことができるよう話し合いや発表などの場をより設定していく。
	様々な情報を比較検討し、自身の考えとして表現したり伝えることができる。	3.8	4.1	身近な話題と関連付けながら、自ら学ぶ姿勢を育む活動を推進していきたい。
	これまでの学びを振り返り、自らを向上させるように取り組むことができる。	3.9	4.1	興味や関心をさらに喚起するとともに、文化の多様性を理解させるよう努める。
数学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学的に解釈したり、表現・処理できる。	2.9	4.2	繰り返し自分で計算し、実際に図形を書いてみることで数学的な理解と考えを深める。
	適切な手法を選択して分析をおこない、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる。	3.6	4.1	復習しながら段階的に新しい内容を学習することで物事を数学的に判断し解決できようにする。
	数学を活用し数学的論拠に基づいて判断できる。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善できる。	3.5	4.1	数学を体系的に身に付けるために、これまで学んだきた数学がどのようにつながっているのかを考える力をつける。
理科	現象について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験を主体的に考えて正しく行える。	3.9	4.2	身近な現象に興味・関心を持たせ、必要となる実験・観察が主体的に正しい手順でできるよう指導していく。
	観察・実験を行って科学的に考察し、その結果を図や文章で的確に表現して伝えることができる。	3.9	4.2	考察の結果を教科書やパソコン等を利用して考察し、自分の意見を正しく表現して、他者に正確に伝えられるよう指導していく。
	現象に主体的に関わり、現象が起こる原因をさまざまな面から科学的に探究しようとしている。	3.8	4.1	なぜ？どうして？と疑問に思った現象を考える機会をつくり、そのことについて原因などをネットでの検索や他者の意見を参考にして、科学的な視点で考えさせる指導をしていく。
英語	外国語の理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションに応じて適切に活用できる。	3.8	4.1	繰り返しの練習を通してボキャブラリーや表現、文法のさらなる定着を図り、実際の自己表現の練習へとつなげていく。
	目的や場面状況に応じて概要や要点、詳細、意図などを理解し、表現したり伝え合ったりすることができる。	3.9	4	授業内でペアワークやグループワークを多用し、適切な発話を促していく。
	文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	3.9	4.2	ALTの多文化講座や生徒が興味を持つような教材を提供し、興味を持って主体的に学べる態度を養っていくと同時に、コミュニケーションを図ることができるよう指導していく。
芸術	芸術の文化的・歴史的背景を理解すると共に、基礎的な技能を身に付けることができる。	4.1	4.3	芸術の良さを実感し、身に付けた技能を日常生活に活用できる力を養う。
	自己のイメージをもって表現を創意工夫することや、作品の良さを味わい深めることができる。	4.1	4.1	創作活動を通して自己の想いや考えを表現する楽しさを味わう。PCを活用し創作の幅を広げる。
	主体的・協働的に幅広い創作活動に取り組むことができる。	4	4.2	主体的に作品制作や発表を行い、成果を実感することで自信に繋げる。
家庭	理解した家族・家庭と社会との関係に関する知識をもとに、生活を豊かに営むための知識・技能を実生活で活用している。	4	4.2	日常生活で活用できる実習を多く取り入れ、生活を豊かに営むための知識と技術の定着を一層図る。
	生活の中から広く社会に関わる視点で課題を設定し、解決策を考え、実践を評価したり改善したりして課題を解決する力を身に付けている。	3.8	4.2	実生活の問題点を個人・社会的な観点から捉え、ICTを活用し課題に取り組み、グループワークで解決できる力を育む。
	よりよい社会をつくるために、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	3.8	4.2	家庭科で身につけた知識・技能等を家庭や地域での生活に活かそうとする姿勢や実践力を養う。
保体	運動の特性に応じた技能と社会生活における健康・安全について理解し、技能を身に付け活用することができる。	4	4.3	健康・安全について身近な話題に触れ興味・関心を持たせるとともに、技術向上のためにICTを活用し、ペアやグループで分析・評価できる機会を設ける。
	運動や健康についての自他や社会の課題を見つけ、解決に向けて深く考察し、積極的に他者に伝えることができる。	3.9	4.2	ペアワークやグループワークで仲間と話し合う場面を作り、課題を見つけ改善策について伝え合う機会を設ける。
	健康の保持増進と体力の向上を目指し、運動に親しみ、自己の責任を果たす中で、仲間と協力し楽しく活動することができる。	4	4.2	自分の身体に関心を持たせ、筋力や柔軟性を鍛えるとともに、仲間と協力したり競争したりしながら取り組める補強運動を取り入れる。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
商業	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる。	3.9	4	基礎科目から各論科目へ移行するなかで、より具体的なビジネスに関わる知識を理解できる力を養う。
	ビジネスについて課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	3.7	4.1	課題発見からその解決に向けて、より具体的に問題点を把握し、その解決のために有効な手段を講じられる力を養う。
	ビジネスの展開力の向上を目指し自ら学び、ビジネスを学ぶ上で主体的かつ協働的に取り組むことができる。	3.9	4	実社会に飛び出す前段階として、周囲と課題点を共有し、その解決のためのアイデアを出し合える力を養う。
総探	自己の適性を生かし、社会の一員として地域に貢献しようと考えることができる。	ー	4.2	探究活動を深めることで社会に関心を持ち、社会的・職業的自立を目指す。
	自分を取り巻く環境に目を向け、自分の思いや考えを他者に伝えることができる。	ー	4.2	情報の整理・比較検討・考察を適切に行い、わかりやすくまとめ、発表できるようにする。
	課題解決に向け協働して取り組み、積極的に社会参画しようとする意識が持てる。	ー	4.1	探究活動を通して自己の在り方や生き方を考え、自分なりに社会に参画し、貢献しようとする意識を育む。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	91.0%	94.0%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	85.0%	91.0%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	92.0%	96.0%
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	92.0%	98.0%
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	91.0%	93.0%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思	83.0%	96.0%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	76.0%	82.0%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	81.0%	78.0%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

・「種まき・芽生え・成長」という意識で、生徒一人ひとりの発達段階に応じたサポートをしている。大変良い83%良い16%
・少人数授業の中で「わかった・楽しい・なぜどうして・自分だったら」の学びを大切にし、個に応じた能力を伸ばしている。大変良い83%良い16%
・授業や行事の中で「命を守る、命を大切にする」学習を通して、多様化する社会を生き抜く力を高めている。大変良い70%良い20%
・総合的な探求の時間での「山梨を知る」探究活動や遠足を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする心を育んでいる。大変良い40%良い40%
学び直し、復習ができて良かった。様子を見ながら、ペースに合わせてやってくれることがありがたかった。大勢の先生方が関わってくれて良かった。

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

知識・技能の定着を踏まえ、思考力・判断力・表現力を用いて、主体的に学びに取り組む姿勢が身に付いてきており、実生活と授業とを結びつけ、CHUOハーモニックプランにおける「種まき・芽生え・成長」の成長段階としての成果が上がっている。本校での学びを通して自信を付け、ペアワークやグループワークを通してコミュニケーション力を高めており、社会での活躍が期待される。
ICT機器に関しては、各自のスマートフォンを使う生徒が多く、BYODの活用に課題があると言える。